

令和7年度は
根獅子小学校
との統合に向
けた交流年度

平戸市立紐差小学校 学校だより No.9



くすの木



令和7年6月13日 文責 校長 市瀬 くみ子

【本校の教育目標】

**高き理想を胸に秘め たゆまず倦まず励みなん
～夢をもち、未来に向かってたくましく生きる子どもを育てる～**

【本年度の合言葉】

つなぐ・つながる・心ひとつに～すべては子どものために～

第20回 平戸市「少年の主張」大会の開催!!

6月8日(日)に、第20回平戸市「少年の主張」大会が平戸文化センター大ホールで開催されました。紐差小からは代表として6年の八木原香英さんが出場し、「だれよりも強い人」と題して発表を行いました。香英さんは、自分の思いや考えを聴き手に正確に届けるため、言葉や文章の細部にこだわって主張文を書き上げました。語尾の一文字にまでこだわる姿は素晴らしく、その文章表現力の高さに感心しました。毎日、学校でも家庭でも発表練習を続け、当日は練習の成果を十分に発揮し、堂々と落ち着いて発表することができました。当日、応援に駆けつけた友達、先生、保護者、地域の方が、「とても上手だった。」「発表内容に感動した。」と誉めていました。

以下に、香英さんの発表内容を掲載します。



「カン、カン、カン、カーン。」「起きなさい。」朝から鳴り響く、お玉でフライパンをたたく音と目覚めの悪い大きな声。「おばあちゃんだ。」とても清々しい朝とは言えません。しかし、こんな騒がしい朝でも、私にとっては日常で、家族、そしていつも元気なおばあちゃんは、私の誇りです。私の家族は、他の家と少し変わっていて、おばあちゃんの家、私たち家族といとこ家族、多い時はあわせて十六人が一緒に住んでいました。小さい頃は、私の家族ならではの変わった楽しさがありました。いところ田んぼを散歩したり、山に階段を作ったり、紐で編んだハンモックで遊んだり、いつもわんぱくな毎日でした。また、家の梅の木から梅を取ってきて、おばあちゃんから梅シロップや梅干しの作り方を教えてもらいながら一緒に作ることもありました。私の家族だからこそできる経験がたくさんで、とても楽しかったです。現在は、歳が離れたいとこ家を出て、十六人だった家族は、十人になってしまいました。

昨年、七十を越えるおばあちゃんに、小さなガンが見つかりました。いつも元気なおばあちゃんがガンだと聞かされた私はとてもショックで、「おばあちゃん大丈夫かな。」「家族はどうなるんだろう。」と、とても不安な気持ちになりました。一方で、おばあちゃん本人は、焦る様子はなく、入院前日の夜に家事の役割分担を決めて、「おばあちゃんがいなくても、自分たちでちゃんとがんばってね。」とニコリと笑っていました。でも、その声はいつもより低く、表情も硬く、少し不安そうに見えました。きっと私たちのために不安を隠していたのでしょう。

おばあちゃんが入院すると、家の中は散らかってしまいました。考えてみると、いつも部屋掃除はおばあちゃんの役割。朝、私たちを起こすのもおばあちゃんの役割。他にも、おばあちゃんが家族のためにやってくれていたことが次々と浮かび、今まで、おばあちゃんにどんなに支えてもらっていたかを実感しました。入院中、おばあちゃんとは直接会うことはできず、外から見えるおばあちゃんの病室を眺めるだけでした。すると、おばあちゃんが病室の窓から手を振ってくれているのが見えました。私はとてもうれしくて、手を振り返しました。そして、お父さんが「ウェーブだ。」と言ったので、びっくりしながらも「これがお父さんなりの応援なんだ」と思い、一緒にへんてこなウェーブをしました。おばあちゃんの表情は見え、多分何をしたかったのかもおばあちゃんにはわからなかったと思います。でも、きっと私たちの姿を見て、元気を出してくれたと思います。おばあちゃんは、私たちの乗った車が見えなくなるまで、病室の窓から一人手を振り続けていました。おばあちゃんの姿を見ることができ嬉しさでいっぱいになっていた私の心は、何とも言えない寂しさになっていました。

おばあちゃんが退院した日、おばあちゃんの胸にははっきりとした傷がありました。おばあちゃんは、布団の中でぐったりしながらも、私たちを見るとにこりと微笑んでくれました。入院前と違って、その表情は硬くなく、少しホッとしました。おばあちゃんの傷跡は、まだはっきりと残っているのに、その傷跡をかき消すかのように微笑むおばあちゃんのとても強く、優しい心が、私の不安な気持ちを一気に温かくしてくれました。今では、おばあちゃんも元気になり、また私たち家族の日常が戻ってきました。

「カン、カン、カン、カーン!」「みんなでやるよ!ほら、起きて!」今日も、家の中に、お玉でフライパンをたたく音とおばあちゃんの大きな声が鳴り響いています。家族は気づいていないけど、私にはわかります。みんなこの家族の日常が大好きだと。他の家族と違って、私たち家族の日常は、きっと「普通」ではないと思います。でも、他の家族と違うこの日常が私の誇りです。私がこんなに誇りに思えるのは、家族の中心となって強さと優しい心で家族を支えてくれるおばあちゃんのおかげだと思っています。「おばあちゃん、いつもありがとう!」